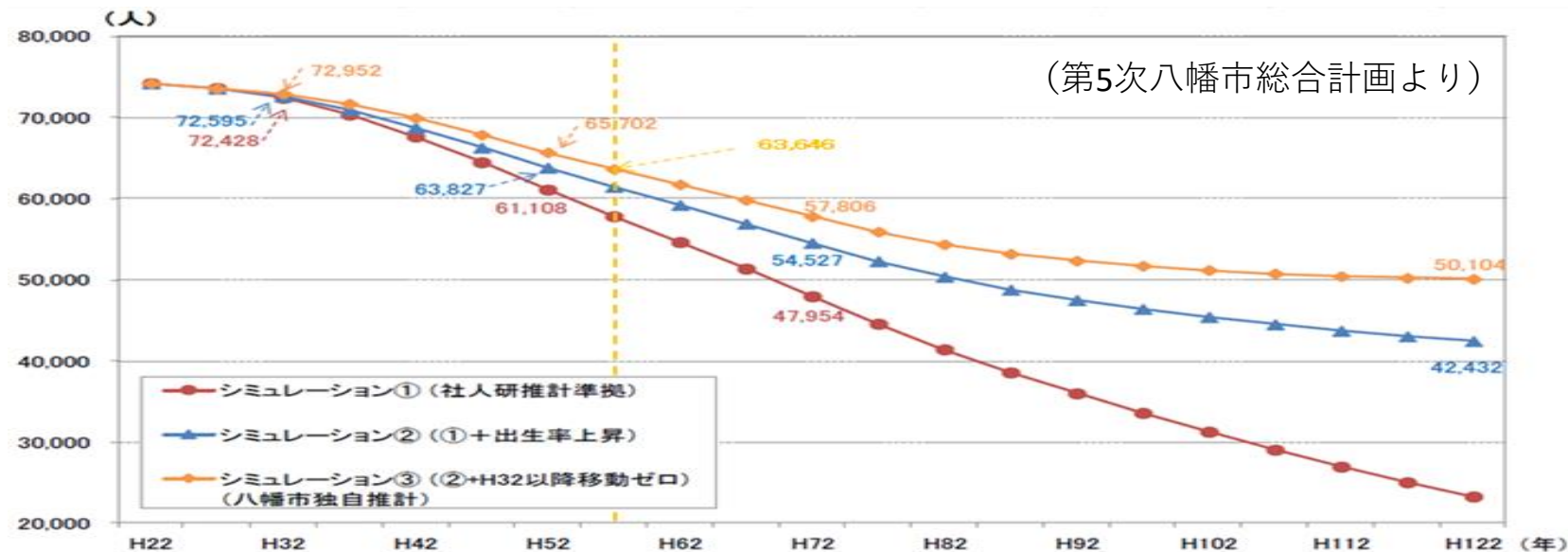
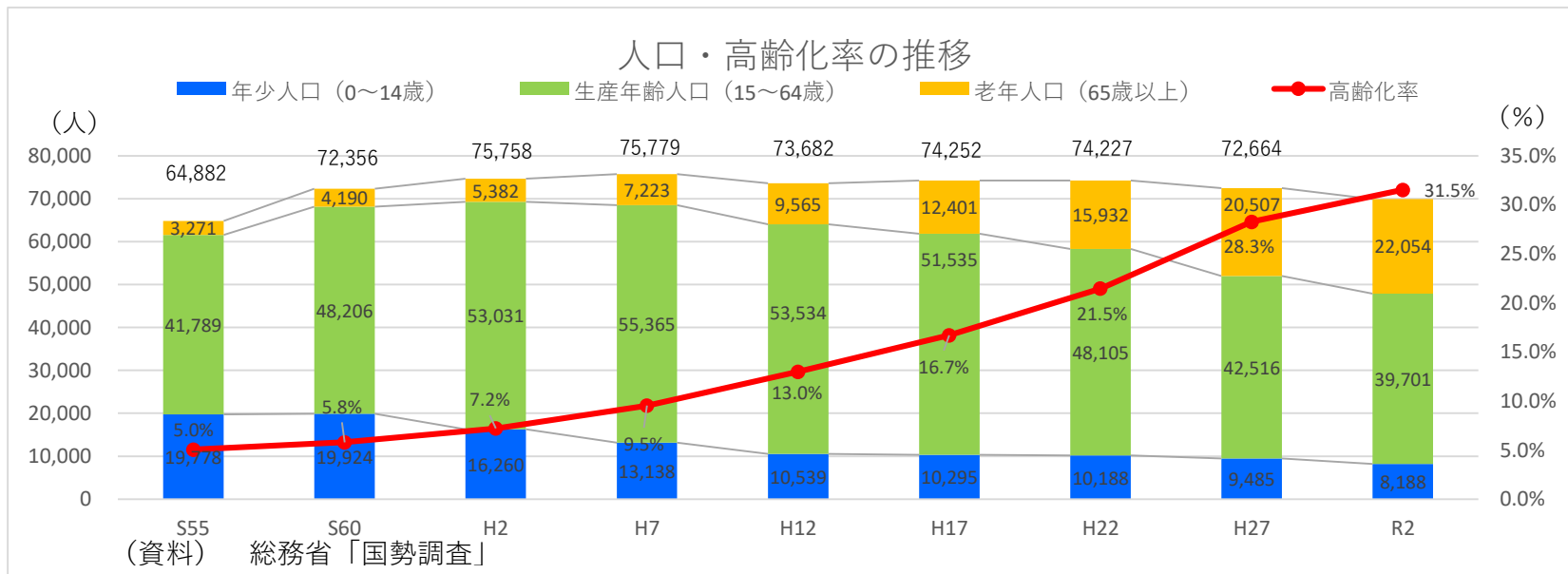


八幡市の財政状況と課題

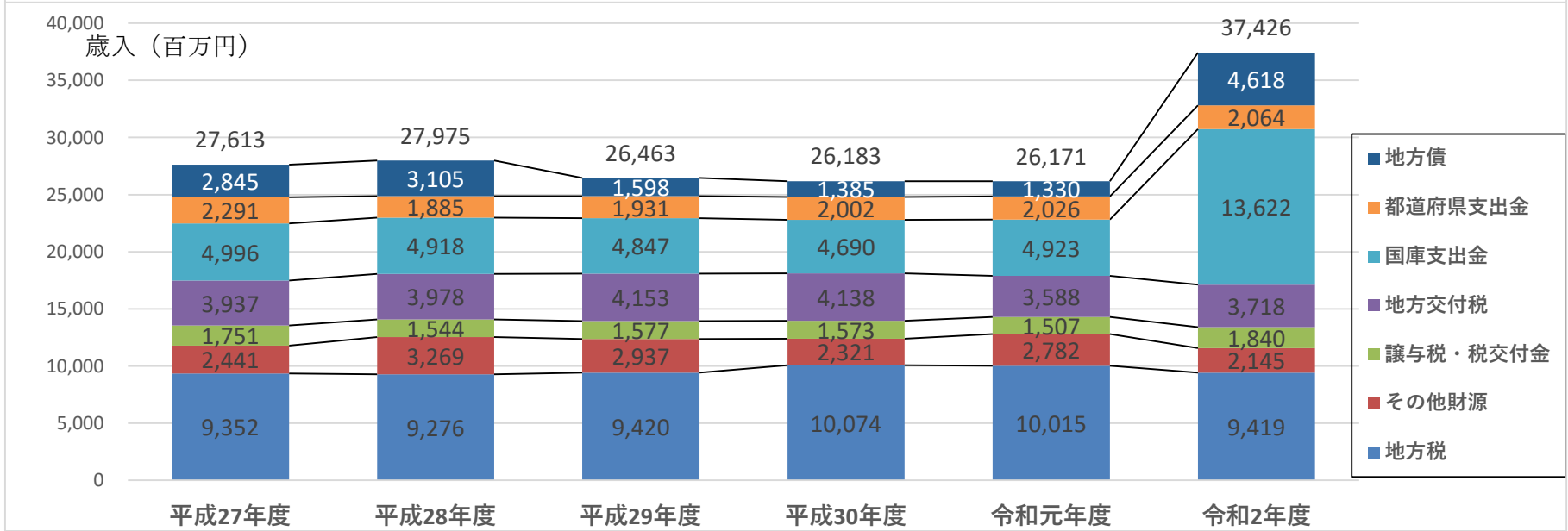
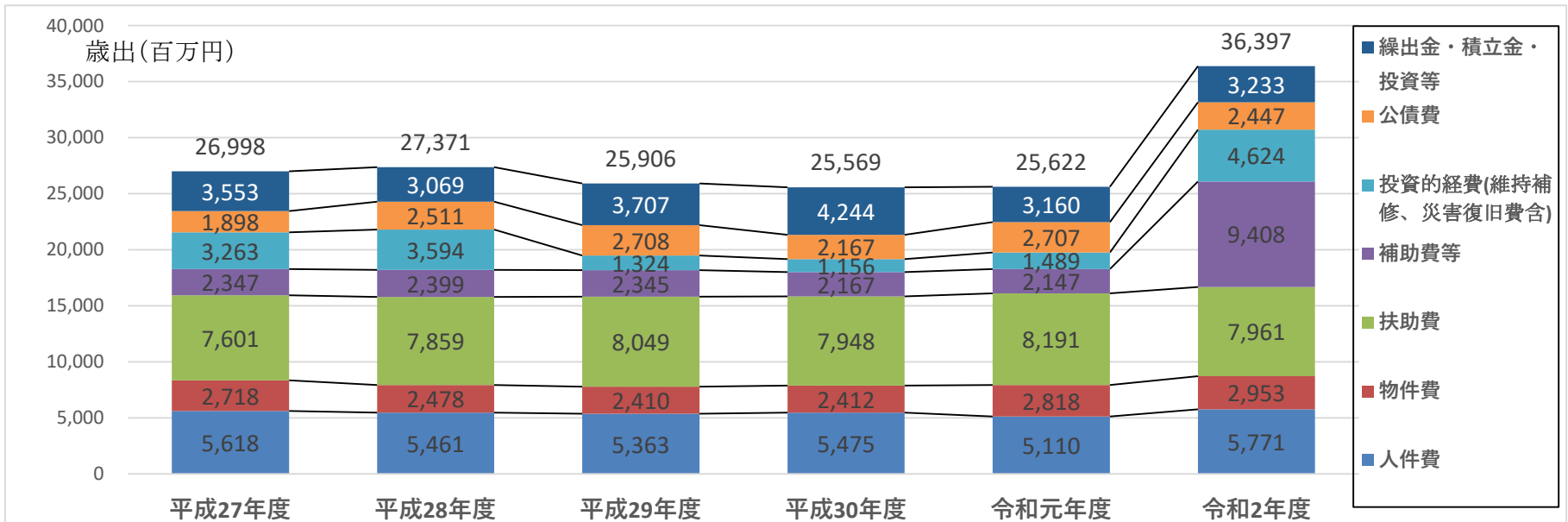
令和4年 5 月

八幡市の概況（人口推移と将来の見通し）



八幡市の概況（歳入歳出決算額の推移）

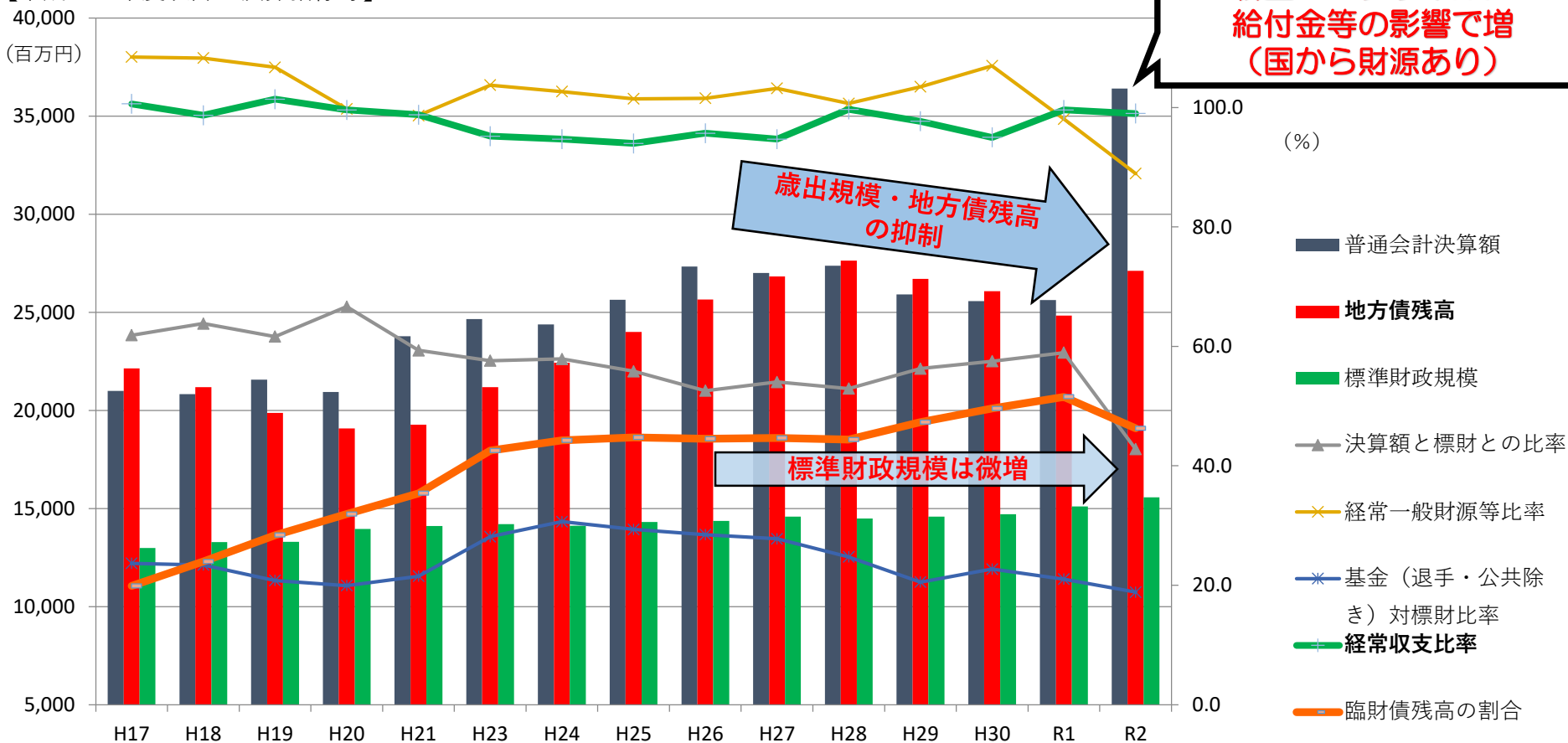
【歳入歳出決算の状況（一般、休日応急診療所の各会計の純計）】



財政運営上の課題認識（その1）

- ▶ 標準財政規模に対しての、歳出規模・地方債残高の増加が続いていたが、直近では歳出抑制や繰上償還、行革の取組により一定抑制がなされている。
- ▶ 経常収支比率については100%に近い値が続いており、財政の硬直度が高い状況である。
- ▶ 令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症にかかる特別定額給付金(国財源)や新庁舎整備費等の影響があり決算額が増加している。

【平成17年度以降の決算指標等】



新型コロナウイルス
給付金等の影響で増
(国から財源あり)

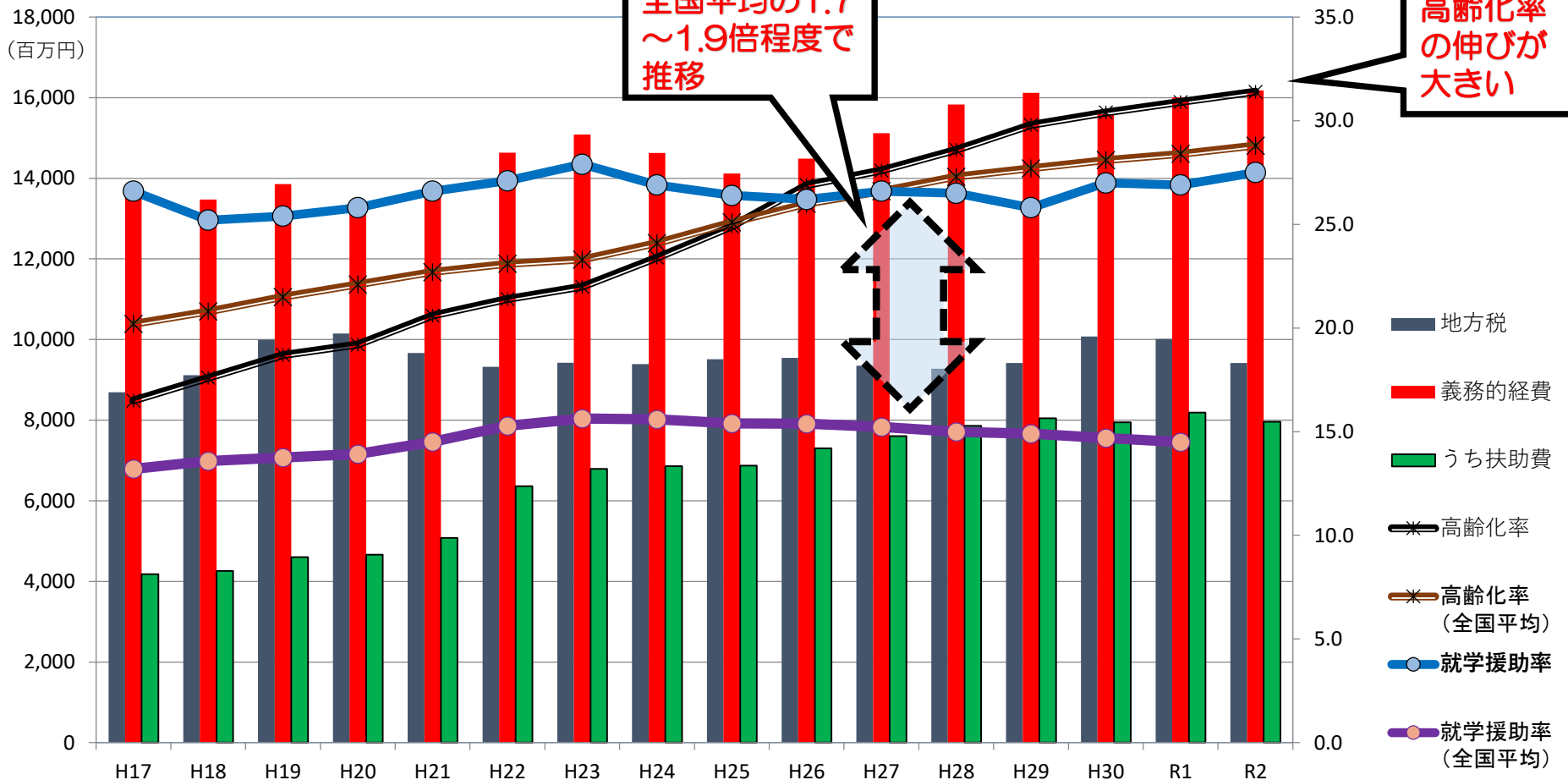
歳出規模・地方債残高
の抑制

標準財政規模は微増

財政運営上の課題認識（その2）

- 歳出を性質別に分析すると、人口の高齢化に伴って扶助費の増加傾向が続いていることに加え、本市の特徴として就学援助率が全国平均と比較して高いこともあり、財政硬直化の一因となっている。近年は扶助費の増加以上に高齢化率の伸びが大きく、今後の財政状況への影響が懸念される。

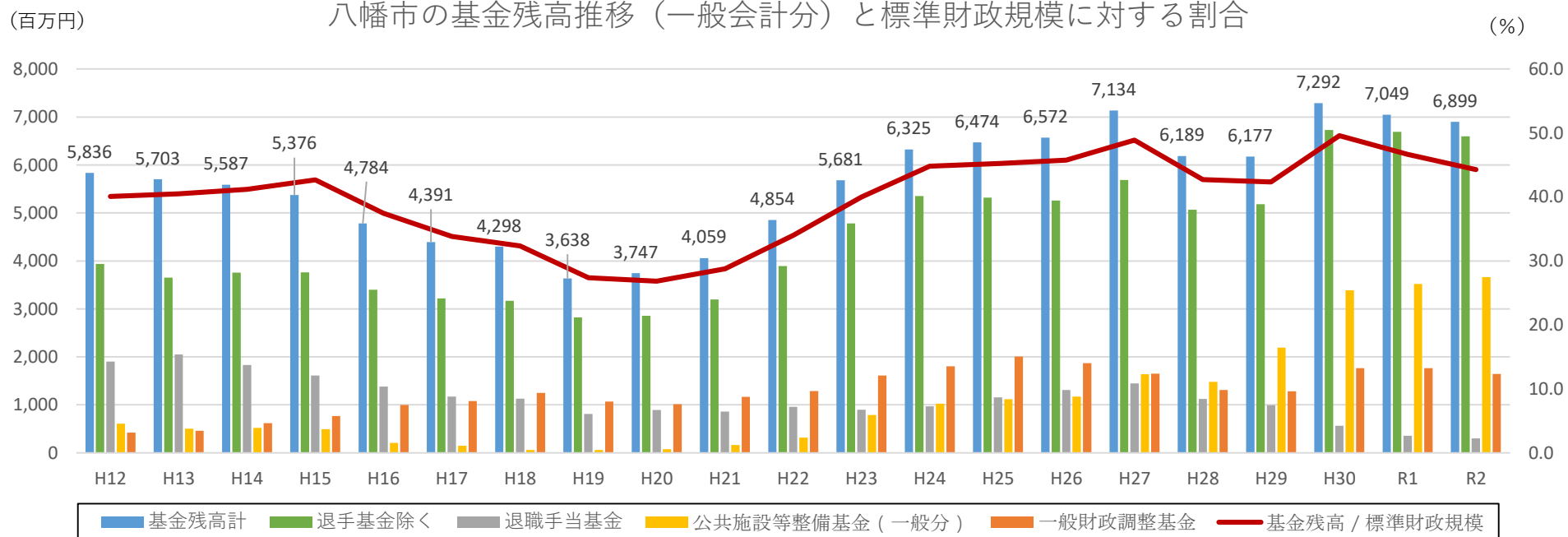
【平成17年度以降の決算性質別分析等】



財政運営上の課題認識（その3）

- ▶ 八幡市においては、直近では新庁舎整備工事に対応するため公共施設等整備基金が増加しているが、基金総額としては約70億円前後でおおむね横ばいで推移している。
- ▶ 令和4年度予算では、新庁舎整備工事において公共施設等整備基金を約14億円取り崩す予定。

八幡市の基金残高推移（一般会計分）と標準財政規模に対する割合



令和4年度当初予算の基本的な考え方

【現状の基本認識】

財政構造硬直化の進捗

- ・義務的経費の増加と新型コロナウイルスの経済への影響により、市財政は引き続き警戒モード。
 - ・少子高齢化による収入減や景気情勢が不透明な中、社会保障関係経費の増加等により収支面でも予断を許さない状況。(R2：高齢化率31.5%、経常収支比率99.0%)
- ⇒ 厳しい財政状況ではあるが、将来に負担を強いることのない、慎重かつメリハリの効いた予算執行が不可欠であり、持続可能な財政構造を構築することが継続した課題

【令和4年度予算編成の考え方】

- 第5次八幡市総合計画を着実に推進し、目指すべき将来都市像の構築に向けた施策を積極的に展開
 - ⇒ 一般会計予算規模336億2千万円(+15.1%)
- 国補正予算等を活用して、緊急安心・安全施策を前倒しで実施
 - ⇒ 3月補正予算対応2.2億円規模(13か月予算)